

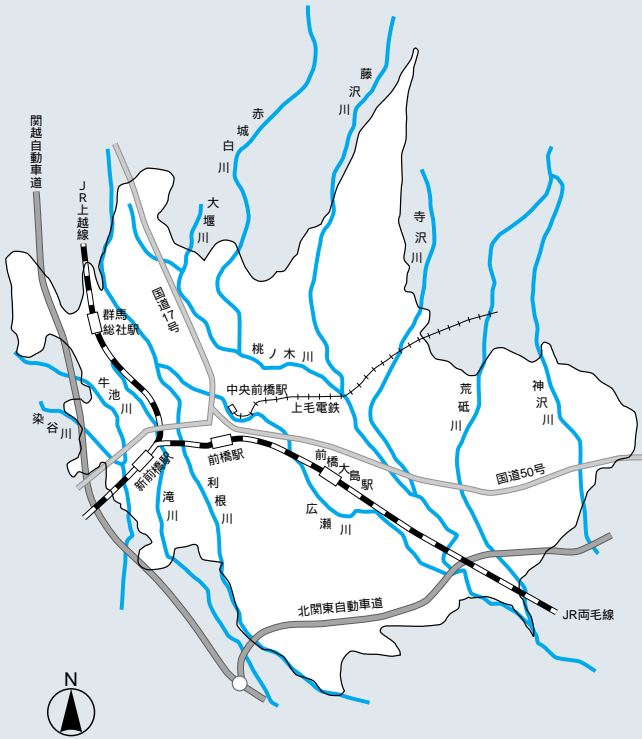
いつまでも

探してみませんか



白い水面の広瀬川

市内の主な河川



もうすぐ夏休み。水に親しむ季節です。「盛夏」川」と聞いて、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。前橋市は「水と緑と詩のまち」をキャッチフレーズにしていますが、市内に幾筋も流れる川は、今、どのような様子になっているのでしょうか。今回はこうしたことについて、市自然環境保全推進員を務める片山満秋さんにお話を聞き、記事をまとめました(担当は市民編集委員・岡村、寺沢)。

問い合わせは広報広聴課 8906642へ。

みんなで作る市民編集のページ

バイカモも自生

バイカモという植物を知っていますか。これは水草の一種。梅のような白い花を水中で咲かせます。富士山のふもとを流れる柿田川の群生が有名で、この時季、清流に揺れる様子がテレビでよく紹介されます。

わき水が流れる清流にあるという印象ですが、桃ノ木川や広瀬川でも自生しています。桃ノ木川は南橋地区から駒形町にかけて、広瀬川は朝倉町までで、特に、中央前橋駅付近では、そばまで近寄って見ることもできます。ゴミの多い場所もあり、



バイカモの白い花

柿ノ木川に自生の水

普段、散歩したり、自転車で通ったりする河畔ですが、ゴミも流れているのにとっして貴重な植物が自生しているのです。それは、尾瀬沿の水が片品川を流れて利根川に合流し、真壁調整池・佐久発電所を経て桃ノ木川へ流れるためです。夏でも水温が十五、六度と低く、都市部の川にしては比較的きれいな水が保たれています。

絶滅危く種も

県の絶滅危く種に指定されているアオハダトンボ、ヤツメウナギの仲間のスナヤツメ、小魚のアカザも市内の川に生息しています。荒牧町で桃ノ木川へ流れ込む大堰川では、「メダカの棲む川づくり」を目指し、取り組みが進められ、全国で減少している水草のアサザも生き続けているのです。